

# 伊那谷・経済動向

## 中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

ALSHIN  
BANK

<https://www.shinkin.co.jp/alshin/>

主要指標	今期	前年同期	前年同期比	
有効求人倍率 (伊那公共職業安定所管内)	2026/2 1.28 倍	2025/2 1.31 倍	前年同月比 -0.03 倍	
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	6,528 台	7,044 台	-7.33 %
	中古車	2,217 台	2,059 台	7.67 %
	合計	8,745 台	9,103 台	-3.93 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)	12~2月 170 件	12~2月 214 件	-20.56 %	
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数	9,656 人	9,331 人	3.48 %	
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	262,506 台	256,698 台	2.26 %
	出	248,760 台	243,007 台	2.37 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	257,381 台	255,353 台	0.79 %
	出	262,670 台	261,704 台	0.37 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	148,022 台	138,035 台	7.24 %
	出	148,257 台	140,043 台	5.87 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	218,670 台	209,259 台	4.50 %
	出	220,955 台	213,571 台	3.46 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	68,972 台	66,658 台	3.47 %
	出	60,127 台	57,755 台	4.11 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	150,049 台	145,864 台	2.87 %
	出	144,012 台	139,412 台	3.30 %

前期10-12月 今期1-3月 来期4-6月 7-9月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先183社に対し、2026年1~3月期の景気の現状と2026年4~6月月期の見通しを調査したものです。

## 地区内の景況観

◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は**19.6%**（前期**16.4%**）、悪かったとする企業は**31.5%**（前期**37.0%**）であった。業種別に見ると、良かったとする企業の割合が最も多かったのは**製造業**で**29.7%**（前期**21.7%**）、次に**不動産業**が**20.0%**（前期**0.0%**）、**建設業**が**17.5%**（前期**15.4%**）の順となった。また、悪かったとする企業の割合が最も多かった業種は**卸売業**で**66.7%**（前期**40.0%**）、次に**小売業**が**63.6%**（前期**58.6%**）、続いて**不動産業**が**40.0%**（前期**60.0%**）の順であった。

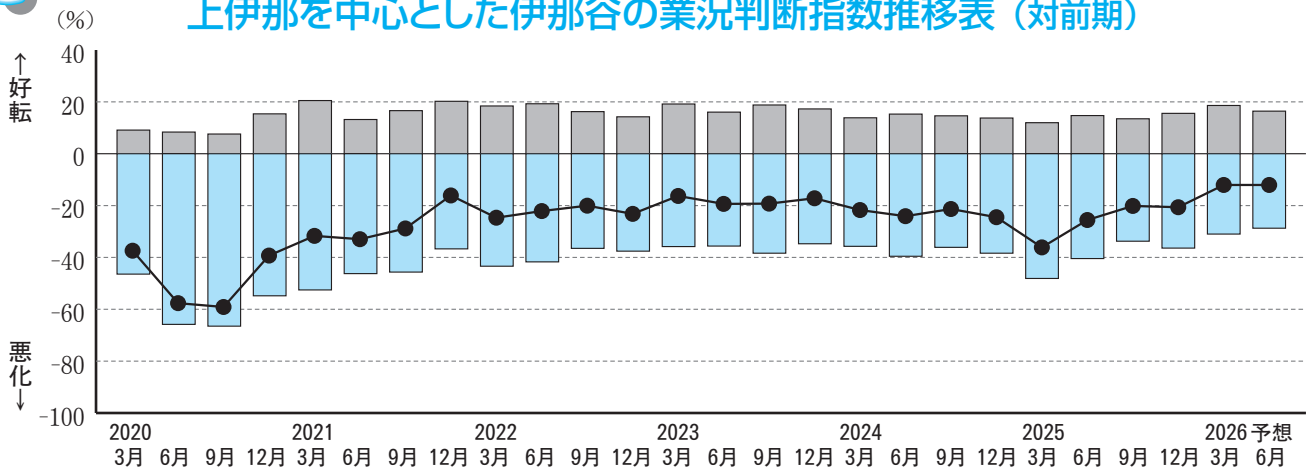
DIを総合的に見ると、**▲11.9**（前期**▲20.6**）とプラス**8.7**ポイントで、悪化傾向は弱まった状況。

業種別にDIを見ると、**製造業**が**9.4**（前期**▲14.5**）とプラス**23.9**ポイントで好調に転じ、**建設業**は**0.0**（前期**▲12.8**）で水面まで浮上した以外は、すべての業種がマイナス領域で、マイナスポイントが大きな順に、**卸売業**が**▲66.7**（前期**▲40.0**）、続いて**小売業**が**▲54.5**（前期**▲48.3**）、**不動産業**が**▲20.0**（前期**▲60.0**）、**サービス業**が**▲15.0**（前期**0.0**）の順となった。

◇**来期の見通し**：来期の業況予想を総合的に見ると、良いと予想する企業は**17.3%**（今期**19.6%**）、悪いと予想する企業は**29.2%**（今期**31.5%**）、DIは**▲11.9**（今期**▲11.9**）で低調感は今期と変わらない予想となった。

業種別のDIを見ると、**製造業**は**3.1**（今期**9.4**）と**▲6.3**ポイントであったが良好感は維持する予想、**建設業**は**0.0**（今期**0.0**）、**不動産業****0.0**（今期**▲20.0**）と安定見込み。他の業種では、**小売業**は**▲51.5**（今期**▲54.5**）、**卸売業**は**▲33.3**（今期**▲66.7**）、**サービス業**は**▲15.0**（今期**▲15.0**）といずれも低調感が残る予想となった。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。

※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。

なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

## 業種別天気図

業種	時期	2025年	2025年	2026年	2026年
		7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期予想
総合		☁️	☁️	☁️	☁️
製造業		☁️	☁️	☁️	☁️
建設業		☁️	☁️	☁️	☁️
卸売業		☁️	☁️	☔️	☔️
小売業		☔️	☁️	☔️	☔️
サービス業		☁️	☁️	☁️	☁️
不動産業		☁️	☁️	☁️	☁️



# 製造業

(調査先企業70社 うち回答企業64社)

◇**今期の業況**：良かったとする企業は29.7%（前期21.7%）、悪かったとする企業は20.3%（前期36.2%）、DIは9.4（前期▲14.5）とプラス23.9ポイントで好調に転じている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは9.4（前期11.6）と▲2.2ポイントと好調感は弱まったが、受注残のDIにおいては20.3（前期10.1）とプラス10.2ポイント、収益のDIでも9.4（前期1.4）とプラス8.0ポイントでいずれも好調感が強まっている。価格面では、販売価格のDIは12.5（前期11.6）とプラス0.9ポイントで上昇傾向を強めたが、原材料価格のDIでも▲53.1（前期▲47.8）と▲5.3ポイントで上昇したと答えた企業の割合は増加している。資金繰りのDIでは、▲1.6（前期▲7.2）とプラス5.6ポイントで窮屈さは緩和している。借入れをした企業は23.4%（前期23.5%）、設備投資の実施をした企業は42.5%（前期40.8%）であった。

前年同期比で見ると、売上額のDIは39.1（前年同期▲9.2）とプラス48.3ポイント、収益のDIも20.3（前年同期▲18.5）とプラス38.8ポイントでいずれも好転している。

◇**来期の見通し**：業況のDIは3.1（今期9.4）と▲6.3ポイントで好調感は弱まる予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、売上額のDIは7.8（今期9.4）と▲1.6ポイント、収益のDIにおいても1.6（今期9.4）で▲7.8ポイント、また、受注残のDIにおいても1.6（今期20.3）と▲18.7ポイントでいずれも増加基調が後退する予想となった。価格面では、原材料価格のDIは▲59.4（今期▲53.1）と▲6.3ポイントで上昇傾向は強まる予想であるが、販売価格のDIにおいても14.1（今期12.5）とプラス1.6ポイントで上昇は強まる予想である。資金繰りのDIにおいては▲1.6（今期▲1.6）で窮屈感是不変わる見通しである。借入れを予定している企業は18.8%（今期実施23.4%）、設備投資の実施を予定している企業は50.0%（今期実施42.5%）となっている。

## ◆DI指数推移

	2025年				2026年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	▲33.8	▲25.4	▲17.4	▲14.5	9.4	3.1
売 上 額	▲21.5	17.9	0.0	11.6	9.4	7.8
受 注 残	▲15.4	10.4	7.2	10.1	20.3	1.6
収 益	▲30.8	0.0	▲11.6	1.4	9.4	1.6
販 売 価 格	21.5	10.4	2.9	11.6	12.5	14.1
原 材 料 価 格	▲47.7	▲46.3	▲46.4	▲47.8	▲53.1	▲59.4
原 材 料 在 庫	15.4	14.9	13.0	14.5	14.1	6.3
資 金 繰 り	▲18.5	▲9.0	▲11.6	▲7.2	▲1.6	▲1.6

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	し た	35.4	19.4	23.5	23.5	23.4	18.8
	し ない	64.6	80.6	76.5	76.5	76.6	81.2
借 入 難 易 度	容 易	12.3	6.0	5.9	5.9	10.9	—
	不 変	66.2	73.1	73.5	66.2	67.2	—
	難	6.2	7.5	8.8	13.2	9.4	—
	該 当 な し	15.3	13.4	11.8	14.7	12.5	—

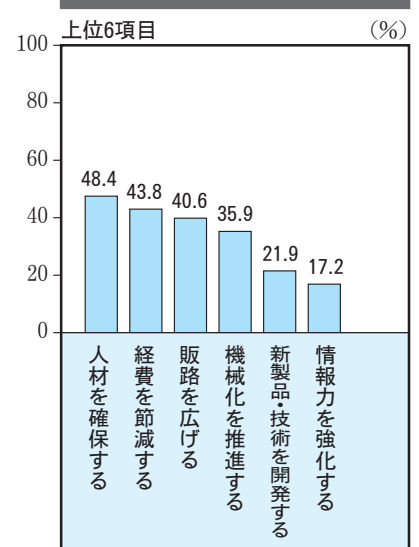
## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実 施	し た	38.6	42.1	41.6	40.8	42.5	50.0
	し ない	61.4	57.9	58.4	59.2	57.5	50.0
状 況	過 剰	10.8	9.0	8.7	2.9	4.8	4.8
	適 正	83.0	79.1	75.4	78.0	80.9	80.9
	不 足	6.2	11.9	15.9	19.1	14.3	14.3
D I	4.6	▲2.9	▲7.2	▲16.2	▲9.5	▲9.5	

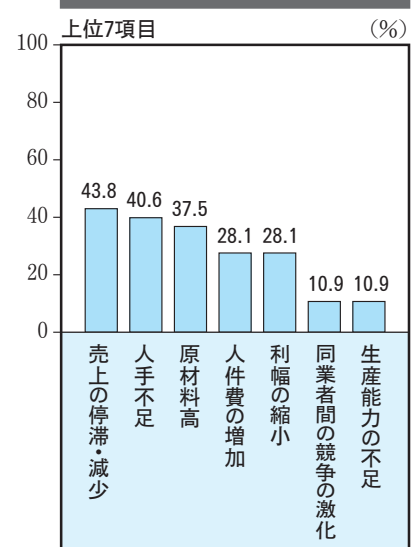
## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残 業 時 間	増 加	18.5	32.8	18.8	34.8	35.9	23.8
	不 変	70.7	55.3	71.1	59.4	61.0	69.9
	減 少	10.8	11.9	10.1	5.8	3.1	6.3
人 手	過 剰	18.8	17.9	14.5	7.2	12.7	8.1
	適 正	48.4	58.2	63.8	55.1	41.3	53.2
	不 足	32.8	23.9	21.7	37.7	46.0	38.7

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

建設業 (調査先企業42社 うち回答企業40社)

◇**今期の業況**：良かったとする企業は17.5%（前期15.4%）、悪かったとする企業も17.5%（前期28.2%）で、DIは0.0（前期▲12.8）とプラス12.8ポイントで回復基調となっている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは10.0（前期▲12.8）とプラス22.8ポイントで増加に転じたが、施工高のDIにおいては▲17.5（前期▲5.1）と▲12.4ポイントで減少を強めている。また、受注残のDIにおいては▲5.0（前期▲12.8）とプラス7.8ポイントで減少幅が縮小した。

また、収益のDIでは▲10.0（前期▲10.3）でプラス0.3ポイントとやや回復傾向となった。価格面では、請負価格のDIは2.5（前期13.2）と▲10.7ポイントで上昇は弱まり、材料価格のDIでは▲55.0（前期▲53.8）と▲1.2ポイントで上昇したとする企業の割合が増加した。資金繰りのDIでは▲20.0（前期▲17.9）と▲2.1ポイントで窮屈感が強まっている。借入れをした企業は32.5%（前期34.2%）、設備投資の実施をした企業は44.4%（前期39.5%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは▲15.0（前年同期0.0）と▲15.0ポイントで減少に転じ、収益のDIにおいては▲25.0（前年同期▲5.0）と▲20.0ポイントで減少幅が拡大している。

◇**来期の見通し**：業況のDIは0.0（今期0.0）と今期と変わらず安定する予想である。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲10.0（今期10.0）と▲20.0ポイントで増加から減少に向かう予想。収益のDIにおいても▲15.4（今期▲10.0）と▲5.4ポイント、受注残のDIにおいても▲7.5（今期▲5.0）と▲2.5ポイントでいずれも減少の予想となった。価格面では、請負価格のDIは7.7（今期2.5）とプラス5.2ポイントで上昇傾向は強まり、材料価格のDIにおいても▲57.5（今期▲55.0）と▲2.5ポイントで上昇傾向が強まる見通しである。資金繰りのDIにおいては▲7.7（今期▲20.0）とプラス12.3ポイントで窮屈感は緩和する予想である。借入れを予定している企業は35.0%（今期実施32.5%）、設備投資の実施を予定している企業は42.5%（今期実施44.4%）となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	2025年				2026年	予想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	▲12.5	▲10.3	▲10.8	▲12.8	0.0	0.0
売上額	▲15.0	▲17.9	0.0	▲12.8	10.0	▲10.0
受注残	▲22.5	▲12.8	15.8	▲12.8	▲5.0	▲7.5
収益	▲15.0	▲15.4	▲15.8	▲10.3	▲10.0	▲15.4
請負価格	5.0	2.6	10.5	13.2	2.5	7.7
材料価格	▲60.0	▲46.2	▲60.5	▲53.8	▲55.0	▲57.5
在庫	0.0	2.6	0.0	0.0	2.5	0.0
資金繰り	▲12.5	0.0	▲21.1	▲17.9	▲20.0	▲7.7

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借入実施	した	27.5	30.8	36.8	34.2	32.5	35.0
	しない	72.5	69.2	63.2	65.8	67.5	65.0
借入難易度	容易	7.5	5.3	8.1	10.3	15.0	-
	不変	67.5	71.1	73.0	64.1	60.0	-
	難	10.0	0.0	5.4	10.3	5.0	-
	該当なし	15.0	23.6	13.5	15.3	20.0	-

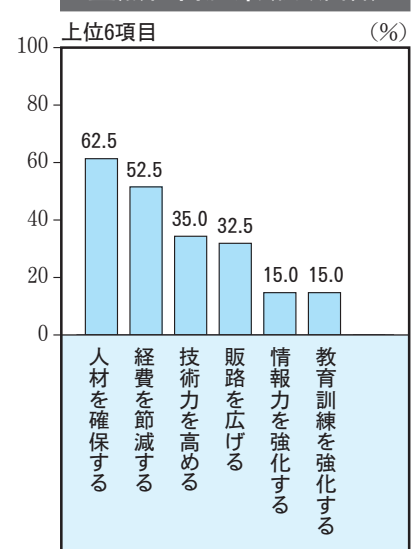
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実施	した	50.0	51.1	44.2	39.5	44.4	42.5
	しない	50.0	48.9	55.8	60.5	55.6	57.5
状況	過剰	0.0	5.1	2.6	0.0	2.6	2.6
	適正	92.5	89.8	86.9	97.4	94.8	94.8
	不足	7.5	5.1	10.5	2.6	2.6	2.6
DI	▲7.5	0.0	▲7.9	▲2.6	0.0	0.0	

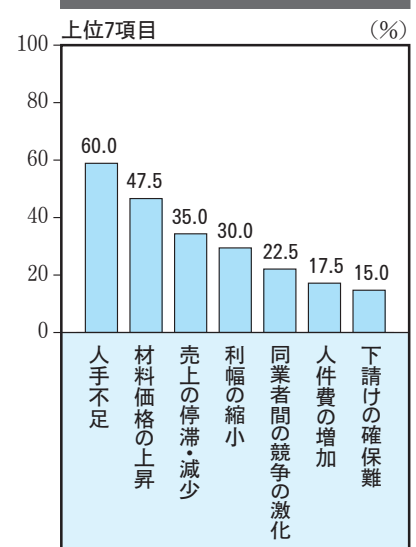
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残業間	増加	7.5	10.3	0.0	12.8	12.5	10.0
	不変	72.5	71.8	76.3	79.5	77.5	77.5
	減少	20.0	17.9	23.7	7.7	10.0	12.5
人手	過剰	0.0	5.1	0.0	2.6	5.0	2.5
	適正	52.5	56.4	57.9	43.6	50.0	47.5
	不足	47.5	38.5	42.1	53.8	45.0	50.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



## 卸 売 業 (調査先企業8社 うち回答企業6社)

◇今期の業況：良かったとする企業は0.0%（前期0.0%）、悪かったとする企業は66.7%（前期40.0%）で、DIは▲66.7（前期▲40.0）と▲26.7ポイントで厳しさは増している。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは▲33.3（前期40.0）と▲73.3ポイント、収益のDIも▲33.3（前期80.0）と▲113.3ポイントでいずれも減少に転じている。価格面では、販売価格のDIは33.3（前期40.0）と▲6.7ポイントで上昇が弱まり、仕入価格のDIについては▲66.7（前期▲40.0）と▲26.7ポイントで上昇の傾向は強まっている。また、資金繰りのDIにおいては0.0（前期▲20.0）プラス20.0と窮屈感は無くなっている。借入れをした企業は33.3%（前期60.0%）、設備投資の実施をした企業は0.0%（前期0.0%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは▲66.7（前年同期25.0）と▲91.7ポイントで増加から減少に転じ、収益のDIについても▲66.7（前年同期▲12.5）と▲54.2ポイントで減少を強めている。

◇来期の見通し：業況のDIは▲33.3（今期▲66.7）とプラス33.4ポイントで厳しさが和らぐ予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは0.0（今期▲33.3）とプラス33.3ポイント、収益のDIにおいても0.0（今期▲33.3）とプラス33.3ポイントでいずれも回復基調となる予想となった。価格面をみると、販売価格のDIは33.3（今期33.3）と安定して上昇、仕入価格のDIにおいても▲66.7（今期▲66.7）と上昇傾向は続く予想となった。また、資金繰りのDIにおいても0.0（今期0.0）と窮屈さは無く安定予想となった。借入れを予定している企業は16.7%（今期実施33.3%）、設備投資の実施を予定している企業は20.0%（今期実施0.0%）となっている。

## ◆DI指数推移

	2025年				2026年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	▲62.5	▲37.5	▲28.6	▲40.0	▲66.7	▲33.3
売 上 額	▲37.5	25.0	▲42.9	40.0	▲33.3	0.0
収 益	▲50.0	▲12.5	▲28.6	80.0	▲33.3	0.0
販 売 価 格	25.0	62.5	28.6	40.0	33.3	33.3
仕 入 価 格	▲50.0	▲75.0	▲57.1	▲40.0	▲66.7	▲66.7
在 庫	▲12.5	12.5	0.0	▲20.0	▲16.7	0.0
資 金 繰 り	0.0	0.0	14.3	▲20.0	0.0	0.0

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	した	12.5	37.5	42.9	60.0	33.3	16.7
	しない	87.5	62.5	57.1	40.0	66.7	83.3
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	—
	不 変	87.5	75.0	71.4	100.0	66.7	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該当なし	12.5	25.0	28.6	0.0	16.6	—

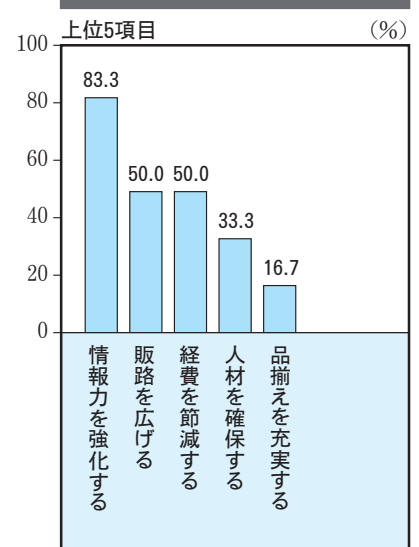
## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実 施	した	0.0	25.0	14.3	0.0	0.0	20.0
	しない	100.0	75.0	85.7	100.0	100.0	80.0
状 況	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	100.0	100.0	85.7	100.0	100.0	100.0
	不 足	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
DI	0.0	0.0	▲14.3	0.0	0.0	0.0	

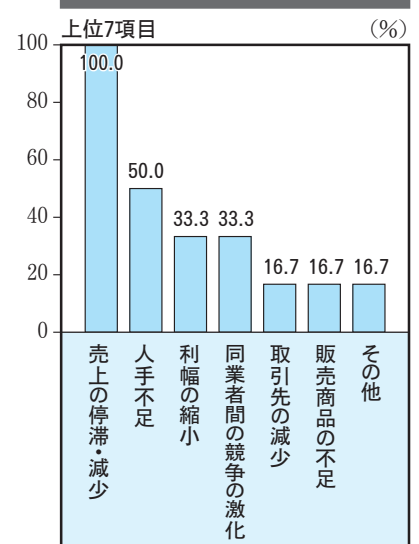
## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残 業 時 間	増 加	0.0	12.5	14.3	0.0	0.0	0.0
	不 変	100.0	62.5	85.7	80.0	83.3	83.3
	減 少	0.0	25.0	0.0	20.0	16.7	16.7
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	87.5	75.0	57.1	100.0	83.3	83.3
	不 足	12.5	25.0	42.9	0.0	16.7	16.7

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

# 小 売 業

(調査先企業34社 うち回答企業33社)

◇**今期の業況**：良かったとする企業は9.1%（前期10.3%）、悪かったとする企業は63.6%（前期58.6%）、DIは▲54.5（前期▲48.3）と▲6.2ポイントで低調感は強まっている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは▲30.3（前期10.3）と▲40.6ポイントで減少に転じ、収益のDIも▲54.5（前期▲27.6）と▲26.9ポイントで減少幅が拡大した。価格面では、販売価格のDIは45.5（前期31.0）とプラス14.5ポイントで上昇傾向を強め、仕入価格のDIにおいては▲57.6（前期▲51.7）と▲5.9ポイントで仕入価格においても上昇傾向が強まった。また、資金繰りのDIは▲24.2（前期▲27.6）とプラス3.4ポイントで窮屈感は緩和している。借入れをした企業は6.1%（前期13.8%）、設備投資の実施をした企業は25.0%（前期28.6%）であった。

これを前年同期と比較すると、売上額のDIは▲27.3（前年同期▲21.2）と▲6.1ポイントで減少幅が拡大、また、収益のDIにおいては▲42.4（前年同期▲48.5）とプラス6.1ポイントで減少幅は縮小している。

◇**来期の見通し**：業況のDIは▲51.5（今期▲54.5）とプラス3.0ポイントで業況感はやや改善する予想となった。

各指標別を今期と比べてみると、売上額のDIは▲27.3（今期▲30.3）とプラス3.0ポイントで減少幅が縮小する予想。収益のDIにおいても▲30.3（今期▲54.5）でプラス24.2ポイントと回復基調となる見通しである。販売価格のDIは51.5（今期45.5）とプラス6.0ポイントで上昇幅はさらに拡大、仕入価格のDIも▲66.7（今期▲57.6）と▲9.1ポイントで上昇幅は拡大する予想である。また、資金繰りのDIにおいては▲24.2（今期▲24.2）で窮屈感は今期と変わらない予想となった。借入れを予定している企業は6.5%（今期実施6.1%）、設備投資の実施を予定している企業は16.1%（今期実施25.0%）となっている。

◆DI指数推移

	2025年				2026年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	▲43.8	▲53.3	▲46.7	▲48.3	▲54.5	▲51.5
売 上 額	▲21.2	▲30.0	▲36.7	10.3	▲30.3	▲27.3
収 益	▲33.3	▲33.3	▲40.0	▲27.6	▲54.5	▲30.3
販 売 価 格	39.4	23.3	23.3	31.0	45.5	51.5
仕 入 価 格	▲66.7	▲40.0	▲53.3	▲51.7	▲57.6	▲66.7
在 庫	▲3.0	13.3	16.7	13.8	18.2	9.1
資 金 繰 り	▲15.2	▲26.7	▲26.7	▲27.6	▲24.2	▲24.2

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	した	15.2	17.2	16.7	13.8	6.1	6.5
	しない	84.8	82.8	83.3	86.2	93.9	93.5
借 入 難 易 度	容 易	9.7	10.3	10.3	14.3	9.4	—
	不 変	67.7	69.0	65.5	67.9	62.5	—
	難	9.7	10.3	13.8	10.7	21.9	—
	該当なし	12.9	10.4	10.4	7.1	6.2	—

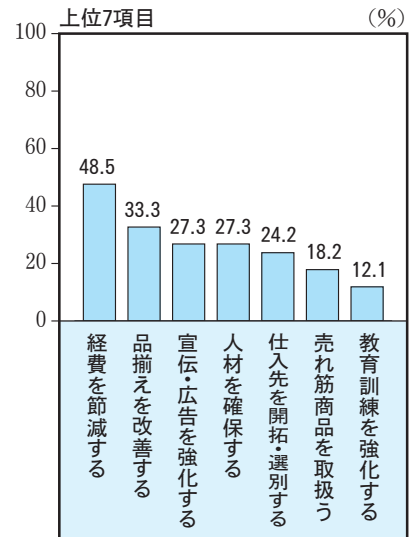
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実 施	した	23.3	26.9	28.6	28.6	25.0	16.1
	しない	76.7	73.1	71.4	71.4	75.0	83.9
状 況	過 剰	6.1	13.3	6.9	10.3	9.1	9.4
	適 正	81.8	80.0	82.8	86.3	81.8	81.2
	不 足	12.1	6.7	10.3	3.4	9.1	9.4
DI	▲6.0	6.6	▲3.4	6.9	0.0	0.0	

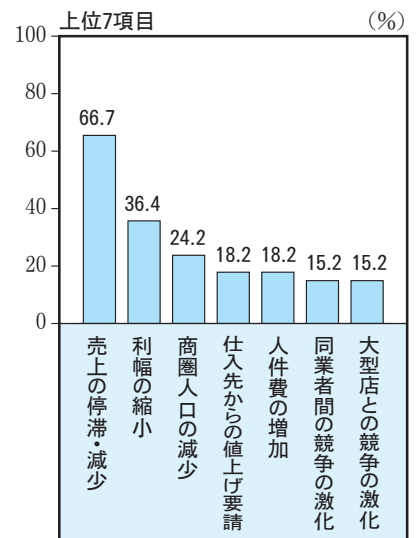
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残 業 時 間	増 加	6.3	10.0	3.4	6.9	0.0	6.3
	不 変	78.1	76.7	86.3	82.8	90.6	81.2
	減 少	15.6	13.3	10.3	10.3	9.4	12.5
人 手	過 剰	3.1	13.3	6.9	6.9	6.3	6.3
	適 正	62.5	60.0	58.6	62.1	68.7	68.7
	不 足	34.4	26.7	34.5	31.0	25.0	25.0

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



# サービス業

(調査先企業23社 うち回答企業20社)

◇**今期の業況**：良かったとする企業は15.0%（前期16.7%）、悪かったとする企業は30.0%（前期16.7%）、DIは▲15.0（前期0.0）と▲15.0ポイントで業況は厳しさを強めている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは▲25.0（前期▲33.3）とプラス8.3ポイント、収益のDIにおいても▲25.0（前期▲33.3）とプラス8.3ポイントでいずれも減少幅が縮小している。料金価格のDIは25.0（前期5.6）とプラス19.4ポイントで上昇は強まり、仕入価格のDIでは▲70.0（前期▲72.2）とプラス2.2ポイントで上昇はやや和らいでいる。また、資金繰りのDIでは▲15.0（前期▲11.1）と▲3.9ポイントで窮屈感は強まっている。借入れをした企業は15.8%（前期11.1%）、設備投資の実施をした企業は23.8%（前期27.8%）となっている。

前年同期との比較では、売上額のDIは▲30.0（前年同期▲13.0）と▲17.0ポイントで減少幅は拡大、収益のDIにおいては▲35.0（前年同期▲39.1）とプラス4.1ポイントで減少幅は縮小している。

◇**来期の見通し**：業況のDIは▲15.0（今期▲15.0）で今期と変わらず低調感が残る予想となった。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは0.0（今期▲25.0）とプラス25.0ポイント、収益のDIにおいても▲5.0（今期▲25.0）とプラス20.0ポイントでいずれも回復の兆しが現れる見通しである。仕入価格のDIは▲85.0（今期▲70.0）と▲15.0ポイントで価格上昇は強まり、料金価格のDIは40.0（今期25.0）とプラス15.0ポイントでさらに上昇を強める見通しである。資金繰りのDIは0.0（今期▲15.0）とプラス15.0ポイントで窮屈感は消える予想。借入れを予定している企業は10.0%（今期実施15.8%）、設備投資の実施を予定している企業は23.8%（今期実施23.8%）となっている。

## ◆DI指数推移

	2025年				2026年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	▲65.2	▲10.5	▲15.0	0.0	▲15.0	▲15.0
売 上 額	▲39.1	21.1	10.0	▲33.3	▲25.0	0.0
収 益	▲65.2	10.5	▲5.0	▲33.3	▲25.0	▲5.0
料 金 価 格	26.1	31.6	30.0	5.6	25.0	40.0
材 料 価 格	▲87.0	▲78.9	▲75.0	▲72.2	▲70.0	▲85.0
資 金 繰 り	▲26.1	▲15.8	▲25.0	▲11.1	▲15.0	0.0

## ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	し た	13.0	10.5	5.0	11.1	15.8	10.0
	し ない	87.0	89.5	95.0	88.9	84.2	90.0
借 入 難 易 度	容 易	4.3	5.3	10.0	11.8	10.0	—
	不 変	65.2	52.6	60.0	58.8	50.0	—
	難	8.7	10.5	15.0	11.8	15.0	—
	該 当 なし	21.8	31.6	15.0	17.6	25.0	—

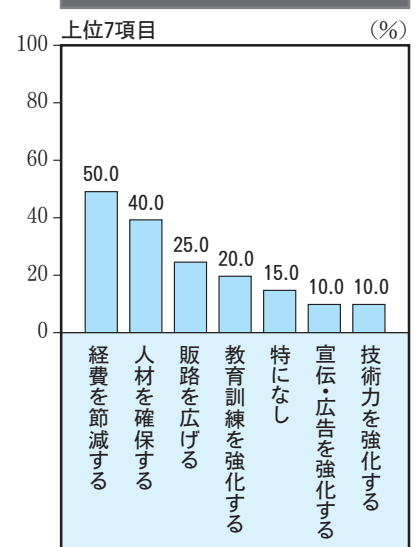
## ◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実 施	し た	21.7	19.0	38.1	27.8	23.8	23.8
	し ない	78.3	81.0	61.9	72.2	76.2	76.2
状 況	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	77.3	73.7	55.0	66.7	65.0	65.0
	不 足	22.7	26.3	45.0	33.3	35.0	35.0
DI	▲22.7	▲26.3	▲45.0	▲33.3	▲35.0	▲35.0	

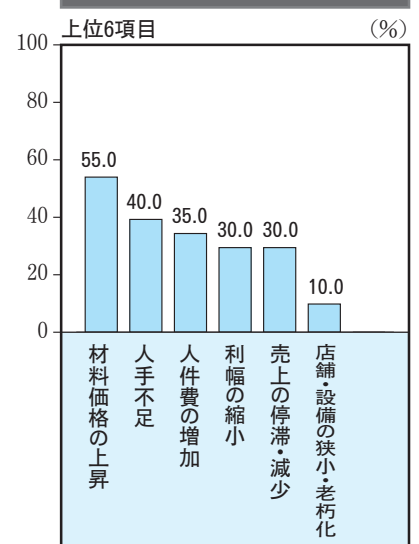
## ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2025年				2026年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残 業 時 間	増 加	4.5	10.5	10.5	11.8	0.0	5.3
	不 変	86.4	79.0	84.2	88.2	89.5	89.4
	減 少	9.1	10.5	5.3	0.0	10.5	5.3
人 手	過 剰	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	47.9	73.7	55.0	38.9	55.0	50.0
	不 足	39.1	26.3	45.0	61.1	45.0	50.0

## 重点経営施策(複数回答)



## 経営上の問題点(複数回答)



## 不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業5社)

◇**今期の業況**：良かったとする企業は20.0%（前期0.0%）、悪かったとする企業は40.0%（前期60.0%）で、DIは▲20.0（前期▲60.0）とプラス40.0ポイントで厳しさが和らいでいる。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは0.0（前期▲20.0）でプラス20.0ポイント、収益のDIについても0.0（前期▲20.0）とプラス20.0ポイントでいずれも水面まで回復している。価格面においては、販売価格のDIは0.0（前期40.0）と▲40.0ポイントで好感にかげりが現れたが、仕入価格のDIにおいては▲20.0（前期▲60.0）とプラス40.0ポイントで上昇は弱まった。資金繰りのDIは、▲40.0（前期▲20.0）と▲20.0ポイントで窮屈感は強まった。借入れをした企業は60.0%（前期40.0%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは▲20.0（前年同期33.3）と▲53.3ポイントで増加から減少に転じ、収益のDIにおいても同様▲20.0（前年同期16.7）と▲36.7ポイントで減少に転じている。

◇**来期の見通し**：業況のDIは0.0（今期▲20.0）とプラス20.0ポイントで改善する予想。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲20.0（今期0.0）と▲20.0ポイント、収益のDIにおいても▲20.0（今期0.0）と▲20.0ポイントで、いずれも減少に転じると予想をしている。販売価格のDIは20.0（今期0.0）とプラス20.0ポイントで上昇傾向に転じる見通し、仕入価格のDIにおいても▲40.0（今期▲20.0）と▲20.0ポイントで上昇傾向は強まる見通しである。また、資金繰りのDIについては0.0（今期▲40.0）で窮屈感は無くなる予想である。借入れを予定している企業は80.0%（今期実施60.0%）となっている。

### ◆DI指数推移

(%)

	2025年				2026年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	▲33.3	▲20.0	16.7	▲60.0	▲20.0	0.0
売 上 額	33.3	▲20.0	16.7	▲20.0	0.0	▲20.0
収 益	0.0	▲40.0	16.7	▲20.0	0.0	▲20.0
販 売 価 格	0.0	0.0	16.7	40.0	0.0	20.0
仕 入 価 格	▲33.3	▲20.0	▲33.3	▲60.0	▲20.0	▲40.0
在 庫	▲50.0	▲40.0	▲16.7	▲60.0	▲40.0	▲20.0
資 金 繰 り	0.0	▲20.0	▲33.3	▲20.0	▲40.0	0.0

### ◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

(%)

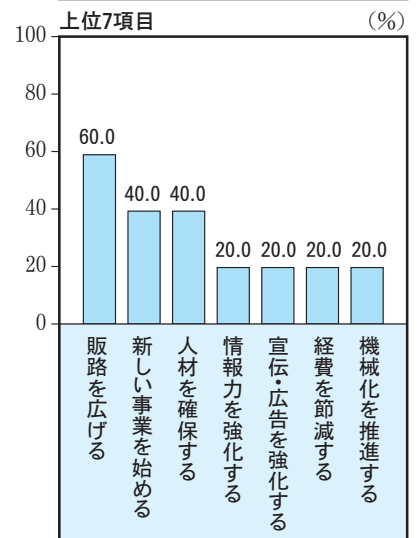
	2025年				2026年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
借 入 実 施	した	66.7	60.0	66.7	40.0	60.0
	しない	33.3	40.0	33.3	60.0	40.0
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	83.3	80.0	83.3	100.0	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該当なし	16.7	20.0	16.7	0.0	—

### ◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

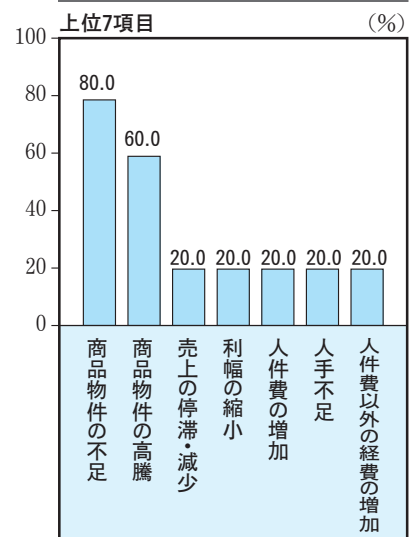
(%)

	2025年				2026年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
残 業 間	増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不 変	83.3	100.0	83.3	100.0	80.0
	減 少	16.7	0.0	16.7	0.0	20.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	83.3	80.0	83.3	60.0	60.0
	不 足	16.7	20.0	16.7	40.0	40.0

### 重点経営施策(複数回答)



### 経営上の問題点(複数回答)



## 特別調査 中小企業経営者のライフデザイン

**問 1** 社長(代表者)は、今後の10年先の自社の経営について、どのように展望していらっしゃると思いますか。併せて、現在の社長(代表者)の年齢階層をお答えください。

【10年先の自社の経営展望】総合では「現状維持・横ばい」と回答した企業が最も多く38.6%、次に「事業拡大」が28.9%、続いて「わからない」が15.7%、「事業縮小」10.2%、「廃業・事業譲渡予定」は6.6%であった。

業種別に見ると、「事業拡大」が最も多かったのは、不動産業が60.0%、製造業が44.4%、「現状維持・横ばい」が最も多かったのは、卸売業が83.3%、建設業が52.5%、サービス業が35.0%、小売業34.4%であった。

【社長(代表者)の年齢階層】総合では「50歳代」が最も多く33.3%、次に「60歳代」が30.3%、「70歳代以上」が20.0%、「40代」が13.9%、「20歳代、30歳代」は2.4%であった。

業種別に見ると、「50歳代」が多かったのは、サービス業が40.0%、製造業が36.5%、小売業が35.5%、「60歳代」が多かったのは、卸売業が50.0%、建設業が37.5%、小売業が35.5%であった。不動産業は「40歳代」と「70歳代以上」が40.0%で並んだ。

(%)

		総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
社10年先の自 の経営展望	1. 事業拡大	28.9	44.4	22.5	16.7	15.6	10.0	60.0
	2. 現状維持・横ばい	38.6	30.2	52.5	83.3	34.4	35.0	20.0
	3. 事業縮小	10.2	6.3	5.0	0.0	21.9	15.0	20.0
	4. 廃業・事業譲渡予定	6.6	3.2	5.0	0.0	6.3	25.0	0.0
	5. わからない	15.7	15.9	15.0	0.0	21.9	15.0	0.0
社長の年齢階層 (代表者)	6. 20歳代、30歳代	2.4	3.2	0.0	0.0	3.2	5.0	0.0
	7. 40歳代	13.9	19.0	7.5	16.7	12.9	5.0	40.0
	8. 50歳代	33.3	36.5	25.0	33.3	35.5	40.0	20.0
	9. 60歳代	30.3	25.4	37.5	50.0	35.5	25.0	0.0
	10. 70歳代以上	20.0	15.9	30.0	0.0	12.9	25.0	40.0

**問 2** 社長(代表者)は、経営者としていつ頃まで現役を続けたいとお考えですか。

総合では、「具体的な年齢の目途がある」と回答した企業は42.8%、「具体的な年齢の目途はない」の回答は57.2%であった。「具体的な年齢」については「70～74歳」が全体の13.3%で最も多く、ここを中心に「65～69歳」と「75～79歳」が同率10.2%で続いている。

「具体的な年齢の目途はない」の回答では最も多かったのは「後継者に託せるようになるまでは現役」が全体の27.7%、次に「健康が続く限り生涯現役」が18.1%、続いて「まったく考えていない」が9.0%、「生活資金の見通しがつくまで現役」が2.4%であった。

(%)

		総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業	
の具体的な年齢 の目途がある	1. 60歳未満	42.8	3.0	1.6	2.5	0.0	3.1	20.0	
	2. 60～64歳		4.8	4.8	0.0	0.0	6.3	15.0	0.0
	3. 65～69歳		10.2	9.5	5.0	16.7	12.5	20.0	0.0
	4. 70～74歳		13.3	14.3	15.0	0.0	15.6	10.0	0.0
	5. 75～79歳		10.2	1.6	20.0	33.3	15.6	5.0	0.0
	6. 80歳以上		1.2	1.6	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0
の具体的な年齢 の目途はない	7. 健康が続く限り生涯現役	57.2	18.1	19.0	12.5	0.0	25.0	25.0	0.0
	8. 後継者に託せるようになるまでは現役		27.7	36.5	32.5	50.0	9.4	10.0	40.0
	9. 生活資金の見通しがつくまで現役		2.4	3.2	0.0	0.0	0.0	5.0	20.0
	10. まったく考えていない		9.0	7.9	10.0	0.0	12.5	5.0	20.0

**問 3** 社長(代表者)は、経営者を引退した後の生活資金についてどのようにお考えですか。

『十分だと思う』と回答した企業は全体の49.4%で、最も多かった理由は「何とかなる」の22.0%であった。また、「何とかなる」の割合が多かった業種は、卸売業、製造業、建設業であった。

『まだ不十分だと思う』の回答した企業は全体の26.8%で、最も多かった理由は「貯蓄・資産が十分でない」の17.7%であった。また、「貯蓄・資産が十分でない」が多かった業種は、不動産業、卸売業、サービス業であった。

『まだ考えていない』は全体の23.2%で、多かった業種は、小売業、製造業、建設業であった。

『引退しない』は0.6%でサービス業の企業にあった。

(%)

		総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業	
思う 十分だと	1.貯蓄・資産がすでに十分ある	49.4	11.0	11.1	7.7	0.0	18.8	10.5	0.0
	2.会社からの退職金が見込める		6.1	4.8	12.8	0.0	0.0	10.5	0.0
	3.年金・保険が見込める		10.4	9.5	17.9	16.7	3.1	5.3	20.0
	4.何とかなる		22.0	28.6	20.5	50.0	12.5	15.8	0.0
まだ 不十分 と思う	5.貯蓄・資産が十分ではない	26.8	17.7	15.9	10.3	33.3	18.8	26.3	40.0
	6.会社からの退職金が見込めない		2.4	0.0	2.6	0.0	3.1	5.3	20.0
	7.年金・保険が見込めない		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8.何となく不安である		6.7	3.2	7.7	0.0	15.6	5.3	0.0
9.まだ考えていない		23.2	27.0	20.5	0.0	28.1	15.8	20.0	
10.引退しない		0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	

#### 問4 社長（代表者）は、個人としてどのような資産管理・運用をいらっしゃいますか。

総合的に見ると、最も多い回答は「預貯金（円貨）」が最も多く**37.2%**、続いて「投資信託」と「個人年金保険」が**12.4%**、「株式」が**11.3%**、「共済等その他保険商品」が**7.9%**、「何もしていない」**7.1%**の順であった。

業種的に見てもすべての業種で「預貯金（円貨）」が最も多い回答であった。

(%)

		総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
社長 （代表者） 個人の 資産 管理・ 運用	1.預貯金（円貨）	37.2	37.9	44.1	20.0	28.3	43.8	33.3
	2.外貨預金	3.8	1.0	1.7	10.0	7.5	6.3	11.1
	3.債券（国債・社債等）	1.1	1.0	1.7	0.0	1.9	0.0	0.0
	4.投資信託	12.4	16.5	6.8	10.0	11.3	12.5	11.1
	5.株式	11.3	14.6	10.2	20.0	11.3	3.1	0.0
	6.不動産	5.6	0.0	13.6	0.0	7.5	0.0	33.3
	7.個人年金保険	12.4	13.6	5.1	20.0	13.2	18.8	11.1
	8.共済等その他保険商品	7.9	6.8	6.8	10.0	13.2	6.3	0.0
	9.仮想通貨	1.1	1.9	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0
	10.何もしていない	7.1	6.8	10.2	10.0	5.7	6.3	0.0

#### 問5 【特別設問】貴社では、人材定着などに向けて、2026年中に賃金（定期昇給分除く、賞与や一時金除く）の引上げを実施（実施予定を含む）しますか。

総合的に見ると、「引上げ」を実施する企業が全体の**63.0%**で、賃金引上げ率は「2%以上4%未満」が最も多く**32.7%**であった。また、「引上げない」企業は**37.0%**で、その理由は、「今後の業績見通しが不透明」が**9.9%**で最も多かった。また「自社に従業員はいない（家族経営など）」も同率で**9.9%**であった。

業種別に「引上げ」を実施する企業を見ると、不動産業、建設業では「0%以上2%未満」が多く、製造業、卸売業、サービス業では「2%以上4%未満」が多い結果であった。また、「引上げない」企業では、卸売業の「賃上げに見合う価格転嫁ができていない」**33.3%**、小売業の「自社に従業員はいない（家族経営など）」**28.1%**が多い回答であった。

(%)

		総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業	
引 上 げ	1.0%以上2%未満	63.0	19.1	7.9	38.5	16.7	12.5	23.5	40.0
	2.2%以上4%未満		32.7	50.8	30.8	33.3	6.3	29.4	0.0
	3.4%以上6%未満		9.9	19.0	0.0	0.0	6.3	5.9	20.0
	4.6%以上		1.2	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
引 上 げ な い	5.賃上げに見合う価格転嫁ができてない	37.0	9.3	4.8	2.6	33.3	18.8	17.6	0.0
	6.同業や同地域内の他社が上げていない		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7.今後の業績見通しが不透明		9.9	6.3	10.3	0.0	15.6	11.8	20.0
	8.売上の低迷や伸び悩み		2.5	1.6	2.6	16.7	3.1	0.0	0.0
	9.これまでに賃金を引上げ済み		5.6	3.2	10.3	0.0	9.4	0.0	0.0
	10.自社に従業員はいない（家族経営など）		9.9	3.2	5.1	0.0	28.1	11.8	20.0

## しんきん法人 インターネットバンキング

手数料無料キャンペーン

対象期間 2026年4月1日～2027年3月31日

新規契約手数料  
基本料金1年分  
**無料!**

通常料金(税込)  
新規契約料 1,100円  
月額基本料 2,200円

詳しくは、営業店窓口または  
担当者までお問い合わせください。



アルプス中央信用金庫

あるしんホームページ | あるしん  
https://www.shinkin.co.jp/aishin/



この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。